

マサバとゴマサバの見分け方

海洋生産技術担当 住友 寿明

Key word ; さば類, マサバ *Scomber japonicus*, ゴマサバ *Scomber australasicus*, 判別方法, 背鰭

はじめに

さば類は、非常に重要な水産資源のひとつであり、我が国をはじめとした世界各地で漁獲され、食料として利用されています。我が国でさば類といえば、一般にマサバ *Scomber japonicus* とゴマサバ *Scomber australasicus* の総称です。マサバは、温帯から亜熱帯に分布するのに対し、ゴマサバは、温帯から熱帯に分布します(益田ほか 1984)。このことから、マサバよりゴマサバの方が南方系の魚であるといえます。



写真 1. 典型的なマサバ(写真上)とゴマサバ(写真下)。ゴマ状模様の違いから容易に見分けることができます。

それでは、我が国全体と徳島県におけるさば類の漁獲量はどうか。昭和 37 年から平成 23 年までの漁獲量を図1に示しました。我が国全体と徳島県の漁獲量は、一部の年を除きよく似た傾向で推移しており、漁獲量は減少傾向にありますが、近年は少ないながら比較的安定しています。

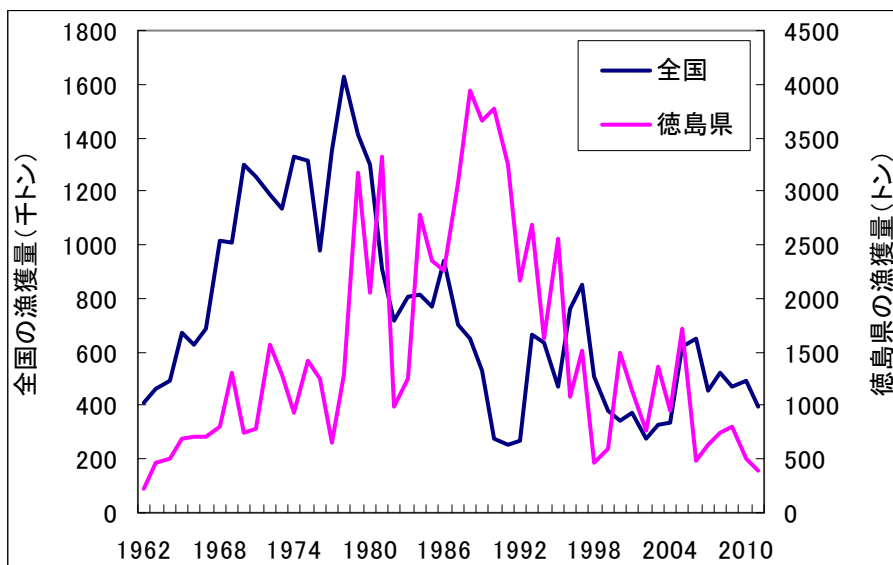


図1. 全国と徳島県におけるさば類の漁獲量(農林水産省統計情報)

つぎに、徳島県の代表漁協(紀伊水道南部)におけるマサバとゴマサバの混獲率を図2に示しました。近年は、さば類全体に占めるゴマサバの割合が多くなっています。この傾向は、徳島県だけでなく和歌山県の紀伊水道周辺海域でも同様です(武田2010)。

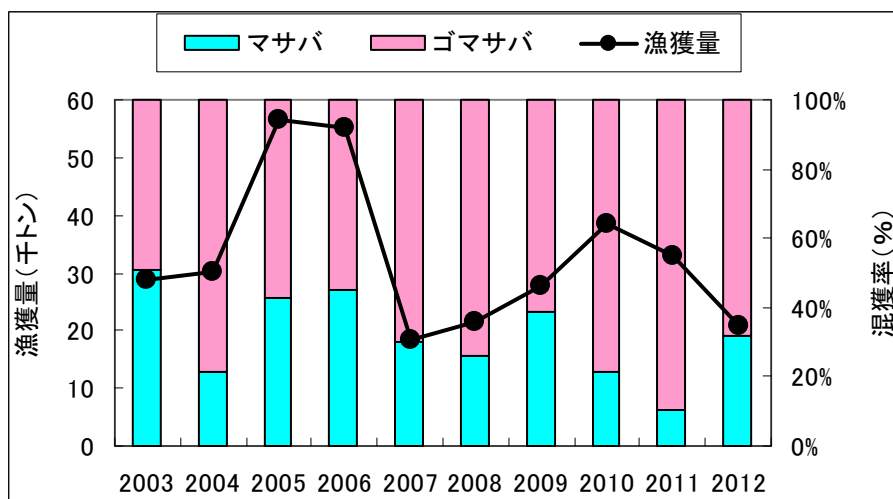


図2. 徳島県の代表漁協における、さば類の漁獲量と混獲率

マサバとゴマサバの判別方法

マサバとゴマサバは別種ですが、外見が非常によく似ています(写真1)。そのため、さば類として一緒に扱われることもよくあります。一般に、マサバとゴマサバでは、サイ

ズや脂の乗りが同じであれば、マサバの方が高価に取引されます。そのため、選別して出荷すると良いのですが、まれに紛らわしい個体も見られます。このため、これまでも漁業関係者から問い合わせがありました。そこで、今回は一見そっくりなマサバとゴマサバの見分け方について水産資源の研究で用いる判別手法を紹介します。

一般に漁業関係者は、体表のゴマ状模様の有無、もしくは平サバ、丸サバなど体高の高さからマサバとゴマサバを判別しています(図3)。これらの方法では迅速に判別できますが、まれに判別が難しい個体が見られます。水産資源の研究では、より正確に資源量を計算するために両種を正確に判別する必要があります。確実に判別するためには、遺伝子レベルで解析することが一番ですが、この方法は高度な技術と分析費用を要するうえに、大量の標本を迅速に判別するには適していません。そこで、次の様な迅速かつ正確に判別する方法が適用されています(農林水産省ホームページ, 図4)。

○マサバ

第一背鰭の棘が9～10本、第一背鰭～第二背鰭間の長さが第一背鰭の基部の長さより短い。

○ゴマサバ

第一背鰭の棘が10～13本、第一背鰭～第二背鰭間の長さが第一背鰭の基部の長さより長い。

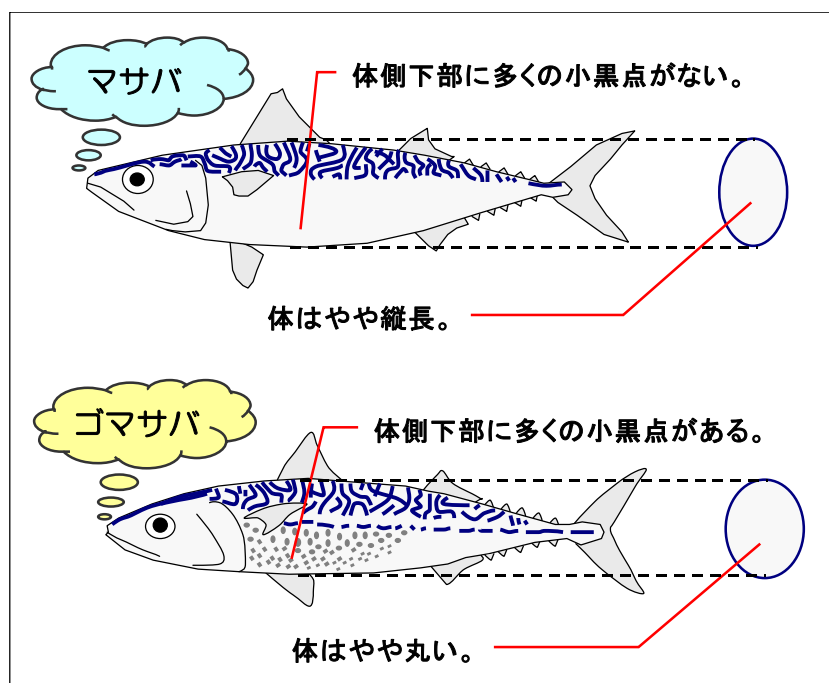


図3. 一般的なマサバとゴマサバの判別方法(中坊 1993)。この方法は、外見的特徴で判別します。

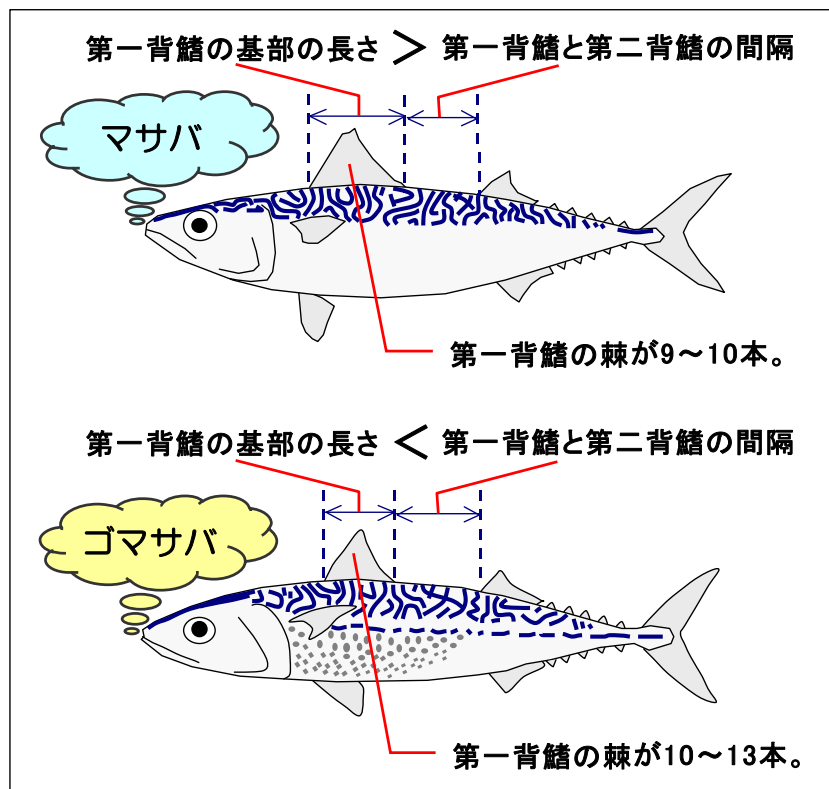


図 4. 試験研究機関が用いるマサバとゴマサバの判別方法その①(農林水産省ホームページ)。この方法では, 第一背鰭の棘の数, 第一背鰭基部の長さとして第一背鰭～第二背鰭間の長さを比較することで判別します。

さらに, 上記の方法を改良したより確実で迅速な方法が開発されています(農林水産省ホームページ, 図5)。

- ①第一背鰭の先頭から1番目の棘の根元～9番目の棘の根元までの長さを測定します。
- ②尾叉長(上顎の先端から尾鰭が二分する中央部の凹みの外縁までの長さ)を測定します。
- ③①を②で割り, この値が0.12より小さければゴマサバ, 0.12以上ならマサバとします。

この方法では99%以上の確率で判別できます。水産研究課では, もっぱらこの方法を用いて判別しています。サバの判別に困った時にはこの手法をご活用ください。

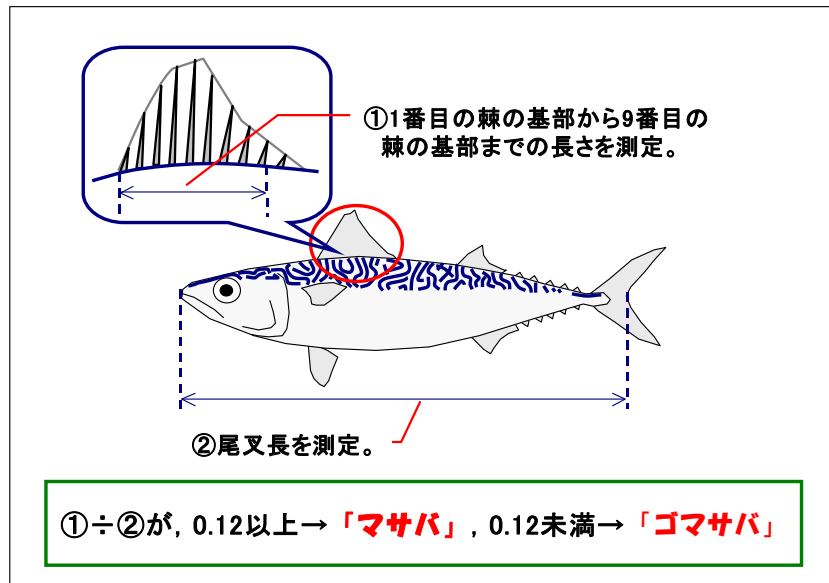


図5. 試験研究機関が用いるマサバとゴマサバの判別方法その②(農林水産省ホームページ)。この方法では, 第一背鰭における1番目の棘の基部~9番目の棘の基部までの長さで尾叉長との比率で判別します。

最後に, マサバとゴマサバは価格も大きく違いますが, どちらのサバも脂の乗った大きいものであればシメサバ, 塩焼き等々たいへん美味しいものであることを申し添えておきます。

参考文献

益田一, 尼岡邦夫, 荒賀忠一, 上野輝彌, 吉野哲夫, 1984, 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 216-217.

武田保幸, 2010, 近年の紀伊水道周辺海域におけるサバ類の漁獲動向と海況変化との関係. 和歌山水研報第2号, 13-19

中坊徹次, 1993, 日本産魚類検索—全種の同定—. 東海大学出版会, 1144.